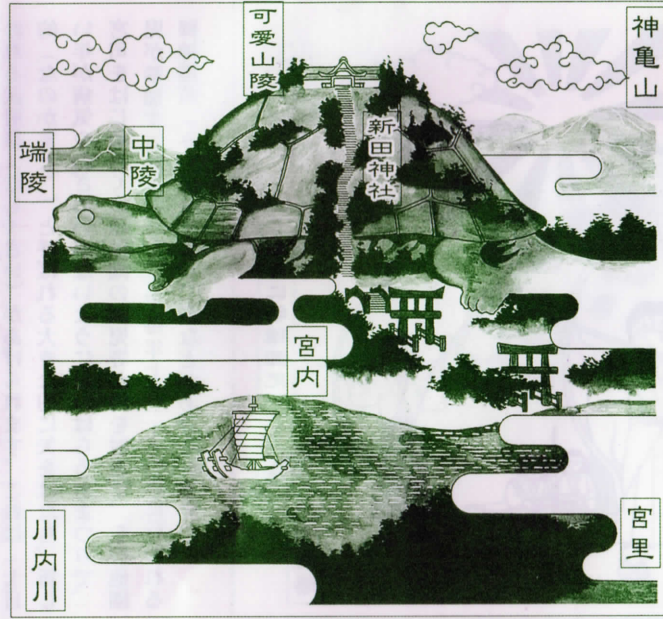


てんそんこうりん
日本神話 (天孫降臨)



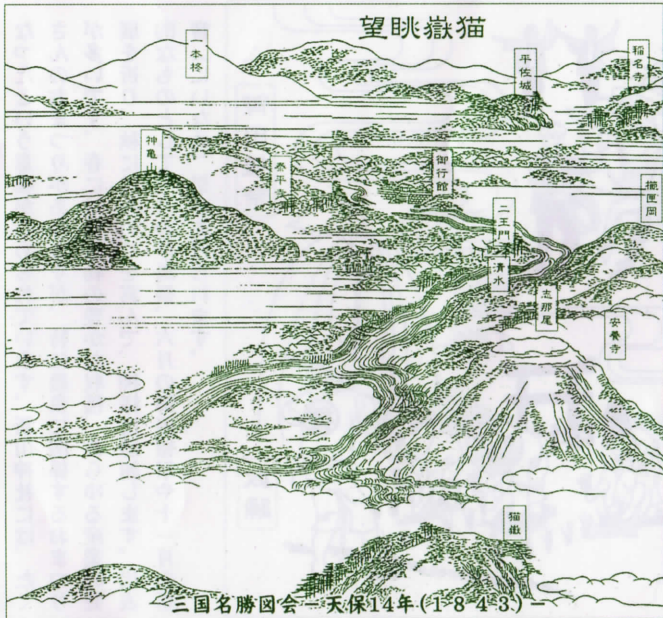
(三)ニギノミコト様はたくさんのお米をおつれになり高千穂(たかちほ)の峯におられました。今の鹿児島県の霧島にあたります。ここではじめてお米をお作りになり、続いて同じく今の鹿児島県南さつま市の笠沙(かささ)宮にうつられ、山の神様の娘であり大変美しいコノハナサクヤヒメ様と結婚されてその後、海路東支那海を北上されて川内の地にこられました。

神 亀 山



(一)新田神社は神亀山(しんきんさん)という亀の形をした小高い山の上にあります。まつられている神様は天皇さまのご先祖にあたるニギノミコト様を中心として、ミコト様のご家族の神様、食物の神様、山の神様などたくさんのお神様がいらっしゃいます。

千 台



(四)川内にお着きになられたニギノミコト様は、この地に立派な高殿(こうてん)を築いてお住まいになりました。「川内(せんだい)」の名はこの「千台」からきています。やがてニギノミコト様はおなくなりになられて、お墓がつくられました。これが今の可愛山陵(えのさんりょう)です。そしてニギノミコト様をおまつりするようになったのが新田神社のはじまりです。

ゆにはのいなほ しんちよく
日本神話 (斎庭稲穂の神 勅)



(二)遠い神代の昔、高天原(たかまのほら)にいらつしやいました太陽の神様アマテラス大神様が孫にあたるニギノミコト様に私たちの住んでいる地上の世界を治めるようにお命じになりました。その時に稲穂をいっしょにお持ちしてお米をつくるようにおつしやいました。

に っ た じ ん じ ゃ
新 田 神 社 の お は な し

文化財



(5) 新田神社は神代の昔より長い間サツマのくに（今の鹿児島県西部の古い呼び方）の守り神様として私たちを見守りつづけて今日にいたっています。
また平安時代から江戸時代にかけての古い記録や、神様にさげられた鏡が残っており国の重要指定文化財になっています。社殿等建物はおよそ四百年前のものでその他たくさんのお宝物が今に伝わっています。

まつり



(6) 新田神社の「新田」という名前には、二二ギノミコト様が川内の地に川内川から水を引いて新しく田んぼをおつくりになったという意味がこめられています。新田神社には、たくさんのおまつりがありますが、特に農業に関係するおまつりが多いです。春には農産物の豊かな収穫、あらゆる産業の発展を祈り、秋にはみのりを喜んで、神様に感謝します。代表的なものとして三月の早馬祭、六月の御田植祭や十一月の新嘗（にいなめ）祭があげられます。

(7) 新田神社で行われる珍しいおまつりとして毎年一月七日に行われる武射祭（むしやさい）があげられます。これは「七日的（なのかまと）」と呼ばれる大きな的に矢をはなち、新しい年が病気やわざわいがなくいらいはらうおまつりで、宮司をはじめくに幼稚園の園児等が的を射ます。その他園児が参加するおまつりとして毎年七月二十八日に行われる御神鏡清（みかがみすまし）祭などがあげられます。

まつり



〒八九五〇〇六五
鹿児島県薩摩川内市宮内町一九三五—二

新田神社社務所

電話 〇九九六（二三） 四七二二番
FAX 〇九九六（二三） 四七九九番

新田の杜（もり）



(8) 新田神社は、こんもりとした森にかこまれておまつりされています。森は、きれいな空気、清らかな水、いろいろな食物、また生活に必要な資材など、さまざまな恩恵を私たちに与えてくれます。私たちの祖先は、こうした恵みに感謝して大切な森に神様をおまつりしました。そして豊かで平和な毎日が送れるように、神様に祈りを捧げ、神社のおまつりをおこなって今日の私たちがいるのです。